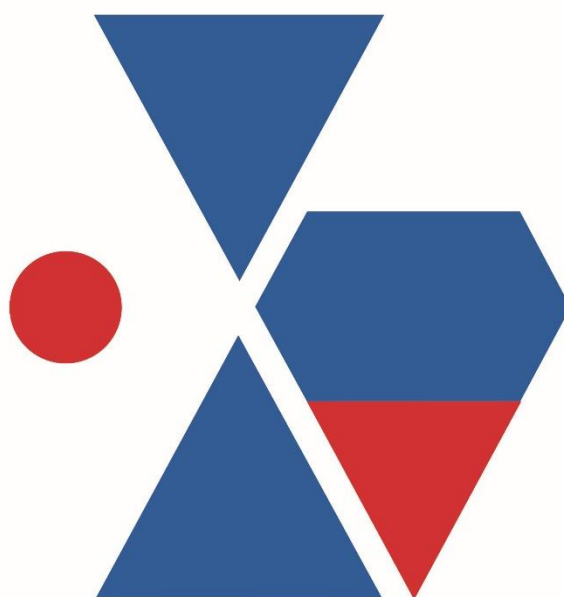


第 35 期 日本ロシア学生交流会

関東本部 報告書



Общество японо-российских
студенческих обменов

令和 4 年度幹事長挨拶

日本ロシア学生交流会 令和 4 年度 幹事長
早稲田大学 文学部 3 年 實測 碩也

弊会は、1989 年の創立以来、日本とロシアの学生による純粋な文化交流活動の促進を目的に、ホームステイ企画の実施や、就職促進シンポジウム「ミチター」など数々のイベントを開催してまいりました。しかし、昨年 2 月にロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始すると、状況は一変してしまいました。弊会には、ロシアのみならず、ウクライナをはじめとする東ヨーロッパはもちろんのこと、中央アジアの国々の言語や文化に興味を持っている会員が多数在籍しており、誰もが今の状況に大変心を痛めています。

そのような中、活動を継続するのは、大きな苦悩を伴うものであり、様々な困難に直面しましたが、「今、自分たちにできることは何か」ということを常に考え、令和 4 年度幹事団は、何度も話し合いを重ねながら、慎重に会を運営してまいりました。

令和 4 年度は、モスクワ市立大学などで日本語を勉強している学生とのオンライン交流会や、文化交流講演会「文化の橋」を開催したほか、「早稲田祭 2022」への出店、食事会の実施など、活動は多岐にわたりました。各々のイベントには、多くの参加者が集まり、どれも成功を収めることができたことと認識しています。特に、「早稲田祭 2022」への出店にあたっては、幹事団と会員から募集した実行委員が力を合わせて、事前準備から当日の運営までを担ったことが印象的でした。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和 3 年度はあまり実施できていなかった対面イベントを、感染対策を徹底した上で、充実させることができたのも令和 4 年度の活動の特筆すべき点であると考えています。対面イベントは、オンラインイベント以上に会員同士の親睦を深める効果があり、対面イベントを開催するごとに、会員同士の仲が良くなっていくのを実感しました。

さて、現在は、令和 5 年度幹事団が発足し、会の運営は後輩に託すこととなりました。それに伴い、令和 4 年度幹事団は引退しましたが、このような困難な状況であるにも関わらず、新幹事を引き受けてくれた後輩たちにはとても感謝しています。

先の見えない情勢が続いていますが、これからも弊会は「今、自分たちにできることは何か」ということを意識し、日々精進してまいります。今後とも弊会を何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、弊会の活動では、非常に多くの方々に大変お世話になりました。令和 4 年度幹事団一同、改めて深く御礼申し上げます。

令和 5 年 3 月 27 日

令和4年度講評

上智大学 外国語学部 ロシア語学科教員
佐山豪太

令和3年度に引き続き、4年度も日露交流の活動は大きな制限のもとで行われた。従来であれば、対面形式で、日本とロシアを交互に行き来しながら相互理解を深めていくという形態を諦め、残念ながら、コロナによるパンデミックが起きてからずっと、別のやり方を模索せざるを得ない状況が続いている。また、大学教員として、「ロシア語・ロシア文化に興味がある」と言いづらい時世には複雑な感情を抱かざるをえない。このような中でも、貴会は日本とロシア間の文化交流の促進に積極的に取り組んでいる。

現在、大学生のロシアへの留学・渡航は難しく、日本人・ロシア人の交流の場は主にzoomなどによるオンライン形式が主要になった。本来であれば顔を突き合わせて、お互いの国の空気を吸って行う交流が、今ではインターネットを介して行わなければならない。現地へ行きたい学生も数多くいると想像できるが、今、日露の文化交流の灯を絶やさないことには大きな意味があるのではないだろうか。

貴会はオンライン交流イベントによって、日本語を学ぶロシア人学生との繋がりを維持し、さらに親睦を深められた点は大きいと言えよう。さらに、この交流会を定期的に開催し、自分が住む街や季節ごとのイベントを紹介するといった活動も評価できる。オンラインという制限があるなかで、学生たちは、今後、自由な往来が実現してからの対面交流への橋渡しをしてくれたと感じた。

同時に、貴会は国内で志を同じくする日本人学生で集まり、多種多様な交流会を実施してきた。例えば、5月のロシア料理会では、会に参加している学生が実際にロシア料理を作るなどして、文化への理解を深めようとした。7月に実施した映画観賞会では『戦争と女の顔』を作品として選び、戦争の悲惨さを学び、今後、参加者に何ができるかを考えるきっかけをつくった。また、相手を理解する、もしくは知るうえで、言語の知識が果たす役割は大きい。そのため、相手の言語を学ぶことは極めて重要であると考えているが、貴会では希望者が集まりロシア語の勉強会を実施している。他にも、バレエ、歌謡、文学を始めとしたロシア文化に関する講演会やイベントを実施し、ロシアへの関心を高めるという活動に従事してきた。

日露交流に関してはまだ見通しの立たない状況が続いており、会員はもどかしい気持ちや逆境を感じながらロシアという国に関わっていると想像される。しかし、貴会には今後も日露交流の灯を絶やさないように活動を継続して欲しいと考える。

令和5年4月30日

目次

第1章 日本ロシア学生交流会について

1. 1 弊会の沿革
1. 2 関東本部及び会員構成について
1. 3 これまでの訪日・訪露企画

第2章 令和4年度の活動について

2. 1 年間活動記録
2. 2 年間収支報告

第1章 日本ロシア学生交流会について

1. 1. 弊会の沿革

1989年、東欧革命により現地への渡航もままならない中、ソ連に赴き、現地で同世代の学生たちと直接ひびを付き合わせて語り合おうと考えた学生有志により、同年6月に弊会の前身となる「日ソ学生交流会」が設立されました。当時はソ連に関する正確な報道も少なく、絶対的な情報量が不足していましたが、得られた僅かな情報を元にして毎週のように「ソ連とは、新生ロシアとは何か」と熱い議論を交わしていました。初期の2年間は、首都モスクワを訪問し、とにかく現地の学生との対話をしようという意気込みの元に活動していましたが、やがてソ連・ロシア激動の時代で交流先を見つけることすら困難となりました。

そのような中、財団からの助成金が一時的に打ち切れ、やむなく自費でモスクワへの渡航が2度実施されました。格安航空券の無いこの時代に「学生が自費で」渡航するのに必要な資金集めに際しては、想像を絶する苦労があったと伺っております。しかし、それでも1994年、会員のカンパによって第1回訪日企画が敢行され、モスクワから1名の学生を招致することができました。

翌年の1995年は、ロシア第3の都市、ノヴォシビルスク市の学生と新たに定期的な交流事業が開始されることとなり、弊会は大きな転機を迎えました。当時顧問を務めてくださった和田氏とフロロヴァ女史との出会いから始まる交流により、主にノヴォシビルスク国立大学東洋学部との交流を継続的に実施し、第1回ノヴォシビルスク訪問事業が実行されました。1996・97年には、日本の家庭を知ってもらうことを目的としたロシア人のホームステイ企画を本格的に始めました。

1998年からは、それまで2期に渡って同年中に行なっていた訪日・訪ロ企画について、主に財政的理由からそれぞれ隔年開催とすることと致しました。1999年には、新しい試みとしてモスクワへの再訪問を行い、現地の学生と交流しました。

2001年の夏より、現在も続くモスクワ郊外の街、リャザンとの交流が開始されました。1995年より続くノヴォシビルスクとの交流も現地メンバーが大きく入れ替わり、活動はより一層充実してまいりました。2009年には、創立20周年を迎え、この間に弊会からは社会で広く活躍する人材を多数輩出しています。

2011年の春には、大阪大学・同志社大学の学生を主な会員とし、関西本部を設立しました。この年は、1997年を最後に途絶えていた訪日・訪ロ企画の同年開催を14年ぶりに果たす運びとなり、翌年には、関東関西2本部体制の中で4都市間同時交流という試みを始めました。

2013年には、外部の方々を招いての斬新かつ大規模な企画を皮切りに、北方四島学生交流企画への参加など多岐に渡って活動が実施されました。2014年の活動では、新たなイベントとして、東京大学の学園祭である「駒場祭」に出店し、弊会について一般の人に広く知ってもらうきっかけとなりました。2015・16年には、会員数が増加し、様々な大学から会員が集まるようになり、活動に活気が生まれました。

2017年は、前年に天候不順によりやむなく中止した北方領土への訪問を果たしました。更には、2013年度に開催された「日ロ学生シンポジウム」を、ロシア関連分野就職シンポジウム「ミチター」と名前を改め再開する運びとなったことに加え、東京大学のもう1つの文化祭である「五月祭」へも出

店しました。また、関西本部が「セーミチキ」として名を改め、別組織として独立し、姉妹団体としての交流は現在も続いております。

2018年は、北方領土に住むロシア人とのビザ無し交流、「五月祭」への出店、第2回シンポジウム「ミチター」を開催致しました。また、新たな試みとしてロシア料理会や、カザンとの交流を目的とした「カザン班」を設立し、活動しました。

2019年も前年同様にシンポジウム「ミチター」をはじめ、ロシア語教室や料理会、バラライカ教室などを開催しました。

2020年2月には、東京・芝公園にて日本初のロシア・ユーラシア文化祭「プラズニク」を開催しました。著名人の方をお招きしたトークショーや、舞踏、演奏の催し物、グッズや食品の販売まで、イベント内容は多岐に渡り、多くのご来場者様に喜んでいただきました。しかし、開催直後に新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、予定していた訪日・訪ロ企画は中止に追い込まれ、活動を大幅に縮小せざるを得ない年となりました。このような状況の中でも、就職シンポジウム「ミチター」を4回目にして初となるオンライン開催に漕ぎつけました。

2021年、緊急事態宣言の発出が複数回に渡り続く中、パンデミックは終息の兆しを見せませんでした。しかし、弊会は全く新しい活動をしていきました。月2回のオンライン日ロ交流会をはじめ、月の約半分を活動日にあて、様々なイベントを開催し、日ロ間だけでなく会員同士の交流を絶やさず、むしろ加速させることを目標に活動しました。

2022年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に最大限配慮しつつ、対面イベントの拡充を図りました。その1つである文化交流講演会「文化の橋」では、ユーラシア地域の文化、風土、民族に精通する専門家の方をお招きし、ご講演を賜るなど、日ロ間の文化交流の促進に注力した活動を行いました。また、オンライン上の活動も絶やすことはなく、現在でもリャザンやモスクワ、シベリアのロシア人学生との定期的なオンライン交流を続けています。

1. 2. 関東本部及び会員構成について

関東本部は、1989年に設立された「日ソ学生交流会」を前身として、現在に至るまでノヴォシビルスク・リャザンとの学生間交流を中心とした活動を行ってまいりました。近年では、訪日・訪ロ企画以外にも、北方領土を訪問するビザなし交流への参加、「駒場祭」や「早稲田祭」への出店など、活動は多岐に渡ります。ロシア語が専攻・第二外国語の学生に限らず、ロシアやその周辺地域への関心、学生交流への興味などが動機で入会する学生も多いです。

2021年以降は、活動の本格的なオンライン化に伴い、会員構成に大きな変化が生じました。かつての会員は、上智大学・東京外国語大学など、特定の大学の学部生が中心でしたが、オンラインでの活動を積極的に取り入れたことで、学校間の垣根を超えやすくなり、これまで以上に多くの大学から会員が集まるようになりました。

1. 3. これまでの訪日・訪口企画

- 1989年6月: 日ソ学生交流会結成
- 1990年8月: 第1回訪ソ企画、日本人13名をモスクワへ派遣
- 1992年8月: 第2回訪ソ企画、日本人13名をモスクワへ派遣
- 1993年7月: 第3回訪口企画、日本人をモスクワ・極東へ派遣
- 1994年 : 第4回訪口企画、日本人をモスクワ・極東へ派遣
第1回訪日企画、ロシア人1名をモスクワから招致
- 1995年8月: 第5回訪口企画、日本人7名をイルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣
- 1996年3月: 第2回訪日企画、ロシア人学生8名・教師1名をノヴォシビルスクから招致
第6回訪口企画、日本人10名をイルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣
- 1997年3月: 第3回訪日企画、ロシア人10名をノヴォシビルスクから招致
- 1997年8月: 第7回訪口企画、日本人8名をノヴォシビルスクへ派遣
- 1998年8月: 第4回訪日企画、ロシア人10名をノヴォシビルスクから招致
- 1999年8月: 第8回訪口企画、日本人16名をモスクワ・ノヴォシビルスクへ派遣
- 2000年8月: 第5回訪日企画、ロシア人9名をノヴォシビルスクから招致
- 2001年8月: 第9回訪口企画、日本人10名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
- 2002年8月: 第6回訪日企画、ノヴォシビルスクから7名、リヤザンから5名のロシア人を招致
- 2003年8月: 第10回訪口企画、日本人13名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
- 2004年8月: 第7回訪日企画、ノヴォシビルスクから6名、リヤザンから3名のロシア人を招致
- 2005年8月: 第11回訪口企画、日本人10名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
- 2006年8月: 第8回訪日企画、ノヴォシビルスクから5名、リヤザンから9名のロシア人を招致
- 2007年8月: 第12回訪口企画、日本人7名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
- 2008年8月: 第9回訪日企画、ノヴォシビルスクから3名、リヤザンから10名のロシア人を招致
- 2009年8月: 第13回訪口企画、日本人13名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
- 2010年8月: 第10回訪日企画、ノヴォシビルスクから7名、リヤザンから7名のロシア人を招致
- 2011年5月: 日本ロシア学生交流会関西本部発足
第14回関東本部主催訪口企画、日本人14名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
- 2012年8月: 第11回関東本部主催訪日企画、リヤザンからロシア人10名を招致
第15回関東本部主催訪口企画、日本人5名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2013年8月: 第12回関東本部主催訪日企画、ノヴォシビルスクからロシア人8名を招致
第16回関東本部主催訪口企画、日本人10名をリヤザンへ派遣
- 2014年8月: 第13回関東本部主催訪日企画、リヤザンからロシア人9名を招致
第17回関東本部主催訪口企画、日本人10名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2015年8月: 第14回関東本部主催訪日企画、ノヴォシビルスクからロシア人6名を招致
第18回関東本部主催訪口企画、日本人8名をリヤザンへ派遣
- 2016年8月: 第15回関東本部主催訪日企画、リヤザンからロシア人6名を招致
第19回関東本部主催訪口企画、日本人10名をノヴォシビルスクへ派遣

2017年8月: 第16回関東本部主催訪日企画、ノヴォシビルスクからロシア人6名を招致
第20回関東本部主催訪日企画、日本人10名をリャザンへ派遣

2018年8月: 第17回関東本部主催訪日企画、リャザンからロシア人5名を招致
第21回関東本部主催訪日企画、日本人10名をノヴォシビルスクへ派遣

2019年8月: 第18回関東本部主催訪日企画、ノヴォシビルスクからロシア人5名を招致
第22回関東本部主催訪日企画、日本人10名をリャザンへ派遣

2020年より、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

2021年よりオンライン交流に転換し、2022年は以下の団体とオンライン交流を行った。

- ・シベリア北海道センター（ノヴォシビルスク）
- ・モスクワ市立大学
- ・リャザン州立大学

第2章 令和4年度の活動について

2. 1. 年間活動記録

3月

3月30日 第0回定例会

4月

4月2日 早稲田大学新生歓迎説明会出席

4月19日 第1回定例会

4月23日 新生歓迎会

4月27日 モスクワ市立大学とのオンライン交流会

5月

5月15日 ロシア語勉強会

5月21日 ロシア料理会

第2回定例会

5月29日 モスクワ市立大学とのオンライン交流会

6月

6月11日 東京外国語大学特別企画展示「ドム・ディム・ドム」鑑賞
食事会

6月15日 オンライン座談会「歌謡」

6月19日 日本語交流授業「架け橋」出席

6月25日 上智大学管弦楽団第114回定期演奏会鑑賞

6月30日 第3回定例会

7月

7月23日 映画鑑賞会『戦争と女の顔』

8月

8月7日 シベリア北海道センターとのオンライン交流会

8月19日 オンライン座談会「歌謡」

第4回定例会

8月25日 オンライン座談会「中央アジア」

9月

9月13日 シャシリク BBQ

9月19日 第1回バラライカ教室
9月23日 第5回定例会
オンライン座談会「文学」

10月

10月4日 第1回ロシア・ユーラシア文化交流講演会「文化の橋」
10月8日 シベリア北海道センターとのオンライン交流会
10月16日 第2回バラライカ教室
10月17日 ロシアバレエ鑑賞会
10月18日 ロシアバレエ鑑賞会
10月20日 第6回定例会
10月29日 ノヴォシビルスク日本語弁論大会出席

11月

11月5日 早稲田祭 2022 出店「文化の家」
11月13日 第3回バラライカ教室
11月26日 リャザン州立大学とのオンライン交流会
11月30日 モスクワ市立大学とのオンライン交流会

12月

12月7日 マトリョーシカ絵付け体験会
12月11日 シベリア北海道センターとのオンライン交流会

2月

2月12日 食事会
2月23日 第2回ロシア・ユーラシア文化交流講演会「文化の橋」

2. 2. 年間収支報告

■収入の部

項目	金額
繰越金	¥689,566
会費	¥186,000
食事会① 参加費	¥17,500
料理会① 参加費	¥5,100
食事会② 参加費	¥3,000
映画鑑賞会 参加費	¥5,500
料理会② 参加費	¥22,500
文化の橋① 懇親会参加費	¥19,000
早稲田祭 売上金	¥85,400
食事会③ 参加費	¥13,000
預金利息	¥4
	¥1,046,570

■支出の部

項目	用途	金額
運営関連	公式サイトサーバー代	¥5,238
	平和中島財団 助成金返還	¥400,000
	通信費	¥1,184
	幹事会議会場費	¥1,512
	雑費	¥5,929
新歓	新歓参加費	¥3,000
	印刷費	¥9,623
	通信費	¥2,250
食事会①	飲食代	¥56,000
料理会①	材料費	¥8,981
	輸送費	¥820
	会場費	¥4,000
食事会②	飲食代	¥16,500
映画鑑賞会	入場料	¥16,500
料理会②	材料費	¥21,080
	会場費	¥38,500
早稲田祭	材料費	¥70,330
	出店料	¥18,000
	輸送費	¥1,920
	民族衣装クリーニング代	¥1,584
文化の橋①	講師謝礼	¥10,000
	会場費	¥10,841
	懇親会飲食代	¥20,867
	印刷費	¥900
	雑費	¥138
パラソ教室	講師謝礼	¥57,960
	雑費	¥1,209
文化の橋②	講師謝礼	¥10,000
	雑費	¥3,860
食事会③	飲食代	¥24,310
繰越金	(次年度へ繰り越し)	¥223,534
		¥1,046,570